



郷土を愛する心が作る創作民話の世界 後世に語り継がれていく物語の 最初の語り部でありたい

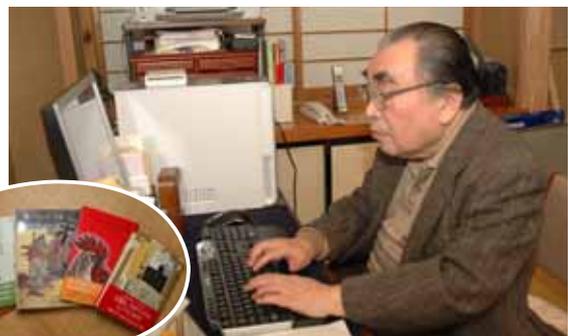
かつてはおじいさん、おばあさんから語り聞かされた昔話も、その伝承の場がなくなること、子ども達の心を豊かに育む創造性や感受性も失われつつあります。そんな中、新たな語りの

場「の必要性を唱え、その土地に密着した創作民話を中心に児童文学・戯曲の世界で幅広く活躍されている方が、さねとうあきらさんです。

昭和33年から児童劇団の演出などの仕事を手がけていたさねとうさんは、全国各地を公演で回りながら、地域性や県民性の違い、さらに、そこに

悲しみに満ちた言い伝えがあります。私は自分の足でその地域を見て歩き、話を聞きながら、風土感をもとに物語を再構成しています」

また、戦争中



独特の世界観が広がる「さねとう民話」

児童文学者・劇作家

さねとう あきらさん (水野在住)



「狭山の創作民話を作り上げることが私の生きがい」と語ります

に伝えられているさまざまな昔話や民話に興味を持ったことになったそうです。その後、昭和47年に児童文学の道に進み、同年、デビューとともに、日本児童文学者協会新人賞、野間児童文芸奨励作品賞を受賞されました。そして、54年に小学館文学賞、61年には産経児童出版文化賞を受賞。昨年は齋田喬戯曲賞を受賞するなど、今や日本を代表する児童文学者のお一人です。

「民話の根底にあるのは郷土愛です。どこの土地にも夢がふくらむ楽しさや、反対に

がそこにあります」と話します。さねとうさんは、現在、平成22年に狭山市文化団体連合会設立10周年事業で上演される「さやま民話風土記」の脚本執筆に力を注ぐ毎日だそうです。「昔話は、最初は誰かが作ったものです。それが後世に伝わり、磨き上げられて古典民話となるのです。私は常にその最初の語り部でありたいと思っています」と力強く抱負を語るその心の中は、郷土の狭山を愛する気持ちで満ち溢れています。

振り込め詐欺に気をつけて



中村すぎ子さん
(祇園在住)

巧みな話術と巧妙な手口で、お金をだまし取ろうとする振り込め詐欺が今だに後を絶ちません。

自治会長と地域安全推進委員という立場から、さまざまな防犯活動や研修に参加していると、犯罪組織の手口が、より鮮明に見えてきます。そして、その手口は次々と新しくなり、最近では、現金を送ることのできない宅配便などを悪用する振り込め詐欺も発生しています。

被害に遭わないためには、一人ひとりが防犯意識を高め、常に警戒し続けることだと思います。「私はだまされない」と思っている、被害に遭われる方はいますので、おかしいと思ったら一人で行動せず、必ず家族や友だちに相談してください。防犯対策に対して「無関心」でいるのではなく、地域が一体となって警戒を強めること、そして、市や警察の方には、今まで以上に啓発活動や講演会などを実施していただきたいと思います。私も引き続き、振り込め詐欺防止活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

市の考え方

貴重なご意見をいただきありがとうございます。

振り込め詐欺については、一時期に比べ、被害は停滞したものの、未だに被害に遭われている方がいます。

市と狭山警察署では連携を図りながら、駅前街頭広報やホームページの掲載などの啓発活動、また、年金振込日には銀行のATMに警察官を配備するなど、被害防止に向けた活動を積極的に続けていきます。

振り込め詐欺被害撲滅に向け、これからも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

担当 交通防犯課

皆さんの「声」をお待ちしています。
お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)
✉koho@city.sayama.saitama.jp

私の宝物 ... 生き方を教えてくれる主人のノート



小瀨和子さん
(狭山台在住)

私の主人は、昨年2月に亡くなりました。悲しみに沈む毎日でしたが、そんな私を元気づけてくれたのもやはり主人でした。

主人が残したノート。大好きだった競馬をさまざまな角度から研究し、詳細に記録したものです。少しは馬券も買いましたが、年金生活であることもわきまえ、決して無理をしませんでした。何事にも真剣に取り組む生き生きとした姿が、今も目に浮かびます。主人の魂がこもったこのノートは、人生の楽しみ方と、何事も分相応に行動することを教えてくれる、私の大切な宝物です。



20年も前からワープロを使って仕上げられたノート

次回は友人で、水野にお住まいの方をご紹介します。

Hello ハロー 仲間たち

Vol.329



水墨画

遊

水墨画は、心を落ち着かせて墨をすることから始まります

私たちは、日本の伝統文化の水墨画に魅せられて始めたサークルです。

発足から18年目を迎えた現在、50代から70代の男女12名の会員が、月に2回、水野公民館に集まり活動しています。

私たちのサークルは、手本となる教本をもとに、講師の指導を受けながら描いています。しかし、墨の濃淡だけで表現することはとても難しく、なかなか納得のいくような作品を描くことはできません。そこに、水墨画の難しさ、奥深さを感じています。

また、個々の絵画技術を向上させるため、毎年、水墨画の展覧会に出かけています。一流の作者の作品との違いを観察し、話し合い、その中で自分たちに足りないところや未熟な部分を見極めながら次の作品に生かせるよう努めています。

これからも、市民文化祭への出展や、公民館での展示を続けながら、見る人に感動を与えられるような作品が描けるように、活動を続けていきたいと思っています。

問合せ青木義昭さんへ

2957 0163